

# Local Life Journal

ローカル・ライフ ジャーナル Vol.8  
2019 Spring

in Nara Okuyamato



おくやまと  
ゲストハウス  
ことはじめ。

「日本一小さい蒸留所」を歴史を感じる宿、増えつつある...

Let's challenge  
the guest house  
management  
at Okuyamato.

奈良・奥大和

## Local Life Report

奥大和の移住や起業、暮らしにまつわる取り組みをレポート。  
今回は宇陀市・天川村・東吉野村・曾爾村エリアをご紹介します。

from  
宇陀市  
UDA  
SHI

日本の原風景を映す棚田の宿  
磨きかけた新棟がオープン。

▶見事な庭園の向こうには、遠く大峰山系までを見渡す絶景が  
▼新築の茅葺家屋の新棟。古とモダンが融合した見事な空間



新棟 ささゆり庵 小角  
〒宇陀市室生深野532  
☎0745-88-9402

囲炉裏の配された和の空間、縁側の先に広がる枯山水庭園、100年前の茶室…。まるで古都の文化財に宿泊するような特別な時間が過ごせる宿。

▶「この景色を後世に伝えていきたいです」と庵主の松林さん

HP <http://sasayuri-ann.jp/PORTAL/index.html>



大阪で貿易会社を営んでいた松林さんが、深野の里山に「棚田の宿 ささゆり庵」を開業したのは2014年。若き日に放浪の旅で見た心の原風景に通じるものをこの地に感じ、棚田を見下ろす高台にある茅葺の古民家を改装した宿をオープンした。大阪にあった会社も宿の隣に移し、両輪で事業を展開している。2018年には新棟「小角（おづぬ）」が完成。国内のみならず海外のセレブからも高い評価を得ている。

from  
天川村  
TENKAWA  
MURA

村の林業と経済を再び活性化  
バイオマス生産供給施設が稼働中。

村内の森林で発生した間伐材を活用することで、森林環境を保全しながら村の経済も活性化させる木質バイオマス利用促進事業に取り組んでいる天川村。村民が集めた間伐材を、村内の商店等で利用できる地域振興券と交換。集めた材は、廃校になった小学校舎を利用した施設で薪に加工し、温泉施設の燃料として利用している。環境と村民、どちらにも優しい循環が生まれているが、今後は村内だけでなく地域外での薪の利用も手掛けていきたい。

▼バイオマス事業に取り組む天川村森林政策課の冨瀬さん



▲材は体積ごとで受け入れ。薪ラックが1日6ケースほど集まる

天川村森林政策課 ☎0747-63-0321

from  
曾爾村  
SONI  
MURA

みんなの夢が一つになった  
日本一小さい焼酎蒸留所。



◀曾爾村のシンボル「鐘岳」をラベルにデザイン。すっきりした味わい

▶「日本一小さい蒸留所」工場跡をDIYで改装した



2018年8月、曾爾村のブランド米を使った焼酎「鐘」が完成した。製造したのは「高齢化が進む村を少しでも明るくしたい」と2016年に設立された農事組合法人「ゆめの里かずら」だ。2年間の努力の末、ようやく2018年2月に酒造免許を取得。「全員素人からのスタート。大変でしたが、皆でつくりあげました」と理事長の穂西（あきにし）さん。今後は、村の特産品として県内外にアピールし、認知度を上げていく予定だ。

▲藤田さん（左）、穂西さん（中）、小西さん（右）

農事組合法人 ゆめの里かずら  
〒宇陀郡曾爾村葛794  
☎0745-96-2315  
葛（かずら）という地域の住人で作った農業法人。焼酎のほかに、甘酒の製造・販売も行っている。

HP <http://soni-agriforestry.jp/yume.html>

from  
東吉野村  
HIGASHIYOSHINO  
MURA

村での暮らしを体験できる  
移住体験施設がオープン。

▶宿泊は2階にある8畳1間と6畳2間の和室で。窓からは美しい川の流れを望むことができる。



県内外のクリエイターたちが集うシェアオフィス「オフィスキャンプ東吉野」を中心に、村の活性化を進めている東吉野村。シェアオフィス利用者や移住希望者の長期滞在ニーズに応えるため、移住体験施設「ゲストハウス小川」が2018年7月にオープンした。村へ寄贈された旧歯科医院を改修、内装は「オフィスキャンプ東吉野」のデザイナー坂本大祐氏が担当した。今後は、移住者増加に向けて各施設で連携し、相乗的に利用者を増やしていく計画だ。



ゲストハウス 小川  
〒吉野郡東吉野村大字小川681-3  
☎0746-42-0441（東吉野村役場）  
壁のペンキ塗りはオフィスキャンプ主催のDIY事業で実施するなど、手作り感のある施設。最長7日まで利用可。

HP <http://www.vill.higashiyoshino.nara.jp/life/news/2018/p1785/>

engawa 奥大和移住定住交流センター「engawa」

地方と都会、若者と大人、移住者と奥大和地域の方々など、いろいろな場所とひとつを「engawa」は、Wi-Fi完備のコワーキングスペース、打ち合わせスペースとして、誰でも利用可能なオープンスペースだ。併設の相談窓口は、奥大和での生活や就業、空き家についてなど移住についてのタイムリーな情報が集まっている。

☎0744-48-3019 〓橿原市常盤町605-5 〓9時30分～18時 〓土・日曜、祝日、年末年始

本紙は、奥大和地域に暮らしているの方々へ、移住者や地域での移住・定住に関する取り組みを紹介し、自らが住む地域の良さを実感していただくために発行しています。

発行・問合せ：  
奥大和移住・定住連携協議会  
（事務局：奈良県奥大和移住・  
交流推進室 ☎0744-48-3016）  
奥大和移住・定住連携協議会は、  
奈良県と奥大和地域19市町村で  
構成されています。

Local Life  
in Nara Okuyamato





松本 ゆきさん(左)  
奈良市出身の松本さん。住宅宿泊管理業者の資格を取得し、自己物件として歴史ある家屋を民泊施設にして営んでいる。

中嶋 宏高さん(右)  
古民家の家主でもある中嶋さん。これまで観光ホテルなどの再建を担ってきたが、その経験やノウハウを現在の民泊経営に生かしている。

古民家の宿 勝右衛門  
伝統の大和古民家を基調としながら、宿泊用のミニキッチンや洗面所、トイレなどは最新式のモダンな設備。薪で焚いたお風呂は格別と評判だ。  
〒御所市今住166  
☎0745-67-0548

松、梅、南天などが美しい中庭。一面の杉苔や這苔はまるで緑の絨毯のよう

HP <https://www.kominka-gurashi.com>



◀ 寝室のある奥座敷は大正期の増築。当時の名工の技が垣間見られる



◀ 軒先に吊るされた干し柿も、のどかな田舎の風情を醸している



◀ 窓の外には曾爾高原の美しい景色が見渡す限りに広がっている

### 江戸期の古民家で体感昔ながらの奈良ぐらし。

江戸期より、生菓の生産とそれを全国に配置する「大和売菓」で発展した今住の町。当時の風情が色濃く残る町の一角に佇んでいるのは「古民家の宿 勝右衛門」。江戸期から続く家屋の空気を今に伝える書院造の奥座敷からは、昔むす中庭の庭園が。縁側に座って眺めれば、同時にタイムスリップしたような気分が味わえる。宿を切り盛りするのは、女将の松本さんと番頭の中嶋さん。「国内外の多くの人々にこの宿を知ってもらい、街の活性化にも繋がりたいですね」と意気込んでいる。



ハゼ場にかかる脱穀前のイネの束。都会では見られない懐かしい光景

辻村 信俊さん  
中学校の教員だった辻村さん。定年後に帰郷し宿を開業。慣れない仕事に戸惑いながらも、宿泊客との出会いに充実の日々を過ごしている。

のぶ  
農家民宿 十津川 信ちゃん  
築100年以上の古民家を改装。敷地内にある手作りの窯を使った手作りピザ体験のほか、農業体験やこんやく作り体験など様々な農家体験が楽しめる。  
〒吉野郡十津川村沼田原387-2  
☎0747-36-0128

HP <https://nobu-chan.amebaownd.com>



▲ 宿の改装の際に復活したかまど。薪で炊くご飯は絶品  
▼ 盆や正月に実家に帰省したような、懐かしい雰囲気の中での宿泊

### 先祖が守った家と暮らす豊かな時流れる農家民泊。

「若い頃には開けずもあつたんです」と、黒くすすけた柱や戸を指しながら教えてくれたのは「農家民宿 十津川 信ちゃん」を営む辻村さん。幼少期を過ごし先祖の代から受け継いだ実家を改装し、昔ながらの十津川村の暮らしを体感できる宿として2018年4月にオープンさせた。「満天の星や深い森を眺めて、何もしないでぼーっと過ごすのが一番の贅沢」と辻村さん。今後は、カモやイノシシなどのジビエを使った料理メニューを充実させたり、ペットも泊まれる宿にしたいと計画 중이다。



▶ 梅干しやゆずのはちみつ漬けなど、手作りでオーガニックな食材が

### ゲストハウス つきひ 月陽

主に村内の木を使い建てられた築60年以上の古民家を改装。背後には曾爾村のシンボルともいえる神聖な山「鐘岳」が聳える絶好のロケーションだ。  
〒宇陀郡曾爾村葛739-1  
☎080-9973-7640

HP <https://tsukihi.amebaownd.com>



### ここ数年で新たに宿泊業に挑戦した人たちの取り組み

## 満天の星、一面の森、歴史ある古民家…。 「奥大和」を全身で感じる宿泊体験。

いにしえより人々を魅了してきた、奥大和の深い森。その、豊かで美しく、時に厳しい大自然とそこに暮らす人々に支えられてきた文化にほれ込み、新たに宿泊業を始めた人々のチャレンジを紹介する。

曾爾高原を見渡す絶景宿で探し求めた暮らしをつくる。

一面に広がる美しいススキ原で知られる曾爾高原。その絶景を見渡す小高い丘の上に2018年11月「ゲストハウス月陽」が開業した。村の地域おこし協力隊に参加していた森岡さんとそのパートナーの坂部さんが、「自給的で持続可能な暮らしづくりを実践し、多くの人たちと共有したい」と始めた宿だ。オープンングパーティでは、オーガニックな野菜や味噌などを使った納豆汁や、つきたての紅白餅が振舞われ、地元の人たちをはじめ多くの人で賑わった。今後は、宿の周囲で育てたオーガニックフラワーやメデイカルプランツを使ったワークショップ、農作業のほか、ものづくり体験なども提供していくそう。「今はまだ手探り状態ですが、自然に優しく循環する暮らしづくりのきろかけになる場所になりたい」と語ってくれた。

森岡 智紀さん(左)  
震災をきっかけに「持続可能な暮らし」を求めオセアニア地域に2年間滞在。その後曾爾村の地域おこし協力隊に参加し、現在に至る。

坂部 奈月さん(右)  
山形県出身。被災後、ニュージーランドに1年間滞在、その際に森岡さんとの出会い意気投合、ともに曾爾村へ移住した。



▲ 二間続きの広い和室に宿泊。昔ながらの懐かしい雰囲気の中で過ごせる  
◀ 土間には手作りのカウンターもあり素敵な空間



居心地の良い和室。昭和レトロな雰囲気も懐かしい



▶ 民家ライクな宿の外観。隣にはオープンスタイルの「昭和食堂」も営業中



泉本 勝代さん  
料理教室を営んでいた泉本さん。幼い頃に祖父母が経営していた民泊を手伝った経験から、宿泊業には馴染みがあったそう。

うんかい きよ やど  
民宿のせがわ村：雲海の里の宿  
世界遺産のある高野山と十津川村の間にある野迫川村の宿。天川村や吉野、熊野などへもアクセスでき、紀伊半島の観光拠点として利用する宿泊客も多い。  
〒吉野郡野迫川村柞原223  
☎07473-7-2056

HP <https://www.facebook.com/nosegawa.unkai.no.sato.no.yado/>